

PCSA アクションレポート(依存問題対策プロジェクトチーム)

令和1年9月版

第30回依存問題対策プロジェクトチーム

- 開催日時 令和1年9月28日（土） 午前10時～正午12時
開催場所 TKP 上野駅前ビジネスセンター 6A
出席人数 メンバー8名、賛助メンバー1名、正会員オブザーバー1名、合計10名
出席者 <リーダー>
辻 良樹 株式会社ダイナムジャパンホールディングス 法務グループ グループ長
<サブリーダー>
荒田 政雄 夢コーポレーション株式会社 顧問
<メンバー>
阿部 到 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 部長
玄 昌起 株式会社ダイナム 営業推進部 業務担当
須藤 暁 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 リスク管理担当
佐久間 仁 株式会社ニラク 法務部 部長代理
武田 裕明 株式会社ニラク 法務部
武内 好努 アメニティーズグループ（株式会社パンドラ） 営業支援部 兼 監査室 課長
<賛助メンバー>
田野倉 司 合同会社DMM.com 営業戦略部 マネージャー
<正会員オブザーバー>
戸田 有希乃 株式会社ニラク 依存問題担当

1) ぱちんこ依存対策 勉強会 in 郡山

- 開催日： 令和1年11月8日（金）
時間： 午後1時30分～午後4時30分
会場： ニラク研修センター（ニッククラブ郡山）福島県郡山市
プログラム： 1. ニラクの依存対策
講師：ニラク法務部
2. 地域の支援の紹介 ～ぱちんこ等で問題を抱えてしまったら～
講師：郡山市 保健福祉部、郡山市 社会保健福祉協議会
高橋司法書士事務所、福島県精神保健福祉センター
3. 質疑応答
主催：株式会社ニラク
協力：依存の問題の支援に関わる人たちの勉強会
後援：郡山市
社会福祉法人 郡山市社会福祉協議会

＜意見＞

- ・第2回パチンコ依存対策勉強会を開催する。半年に1回の継続開催を目指す。主な対象は、福島県内、郡山近辺の福祉や保健の支援職の方々。プログラム1は、当社の依存対策を支援職の方に向けた説明。パチンコ実機を設置して説明をする。プログラム2は、支援職の方々にその仕事内容を説明していただく。プログラム3は、質疑応答で時間を多めにとった。
- ・前回の第1回はパチンコ業界の方が半分くらい占めていた。
- ・申し込み方法はメールまたは電話で個別にお申し込みいただきたい。また、今回、講演の名義に郡山市の冠を頂けた。
- ・郡山市に非常に積極的にご協力いただいている。例えば、市内の民生委員の代表会議でこのチラシを配布するなどの協力を頂いている。
- ・定員50名と記載があるが、キャパはそれ以上あるので是非参加をお願いしたい。
- ・大々的にはPRとはいかないが、郡山市の遊技事業協同組合を通じて、ホールに案内する。
- ・一般公開されているか？ ⇒ 来週公開予定。
- ・一般社団法人ぱちんこ広告協議会（PAA）のワーキンググループ（WG）にて情報共有は可能か？
⇒ 問題なし。
- ・郡山市との話はどう進めたのか。⇒ 5月の第1回の当社セミナーでコンタクトした。
⇒ 社会福祉協議会と話をしてから、主管部署につなげてもらってから積極的にご対応頂いた。
- ・ギャンブル依存の事例を話すのか？ ⇒ 各部門の相談内容や対応を説明していただく。

2) ギャンブル等依存問題を契機として～生きることに苦労している人たちの「幸せ」を考える～

開催日： 令和1年11月17日（日）

時間： 午前10時15分～午後4時45分

会場： 吉田会館 長野県長野市吉田3-22-41

テーマ/パネラー：

「行動嗜癖の諸問題とやる気の仕組み」

篠原 菊紀 様 公立諏訪東京理科大 応用情報工学科 教授

「発達障害者の場合の支援や介入の要点 ～学び方の違いを知ろう～」

今井 忠 様 NPO 法人東京都自閉症協会 理事長

「依存症を抱える被疑者・被告人の実際と、司法を超えた個別的支援の必要性」

堀米 美聡 様 元弁護士

主催：認定NPO法人ワンダーポート

後援：長野県

認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク

依存の問題の支援に関わる人たちの勉強会

一般社団法人日本自閉症協会

協力：株式会社アイエス・フィールド

株式会社アメニティーズ

有限会社トータル・ノウ・コネクションズ（TKC）

＜意見＞

- ・長野県遊協へご協力をお願いをした。

・篠原菊紀先生のプロファイルや近況は？

⇒ 長野県茅野市出身。長野県諏訪清陵高等学校、東京大学教育学部卒業。同大学院教育学研究科修了。

東京理科大学諏訪短期大学講師、助教授、諏訪東京理科大学共通教育センター教授を経て、公立諏訪東京理科大学工学部情報応用工学科教授、地域連携研究開発機構医療介護健康工学部門長、学生相談室長。茅野市縄文ふるさと大使。日遊協 理事。

フジテレビ「とくダネ！脳活ジョニー」「今夜はナゾトレ」、BS フジ「脳ベル SHOW」、NHK「チコちゃんに叱られる」「子ども科学電話相談」「あさいち」、日テレ「頭脳王」、SBC「ラジオ」などで解説や監修。

ブログは、「はげひげの脳的メモ」。

3) 健全営業推進セミナー2019

開催日： 令和1年10月4日

会場： 札幌コンベンションセンター（北海道）

プログラム： 主催者挨拶 札幌方面遊協 合田康広理事長
セミナー

「ばちんご営業の健全化推進について」

北海道警察本部生活安全部保安課 宮下 英昭 指導官
講演

「各種不正事案への対応の基本」

有限会社ジャパン・セキュリティ・サービス 高石 隆一 代表
フォーラム

「パチンコ・パチスロ依存問題フォーラム」

RSN 出向者による出講体験談・ホール現場での事例報告
NPO 法人ワンダーポート 中村 努 施設長による講演

<意見・説明>

・（開催日前の説明）来週、札幌方面遊協で研修会を開催する。行政講話、他2時間依存対策を講義。その内100分を全日遊連主催で5月14日の依存問題フォーラムのDVDを編集したものを流すと聞いている。また、出向者の事例報告、体験談などが挟まれると考えている。また、ワンダーポートの中村先生は依存は病気ではないという講演をする。

今回は、全日遊連が初めて地方での依存対策セミナーを開催するモデルケースとなる。今後は、各地方に波及するのではないかと。また、これは定期的な研修会で、そこに依存問題対策を入れている。

4) 21世紀会 依存問題対策要綱について

21世紀会より、ギャンブル等依存症対策推進基本計画にのっとり「パチンコ・パチスロ産業依存問題対策要綱」をパチンコ業界とまとめ所轄官庁に報告する。その為、21世紀会所属団体に、「パチンコ・パチスロ産業依存問題対策要綱（案）」を提示、9月末までに意見を募ることとなった。PCSAでは9月理事会前に意見を募集、議題として俎上にあげた。なお、下記は9月理事会、電子理事会で検討された議題である。

【要綱 第3-13】

原案：「各地域の包括的な連携協力体制への参画」

意見：よりわかりやすく、文言を「各地域との包括的な連携協力体制の確立」に変更。

【要綱 第 3-14】

原案：「RSN の相談データの分析および遊技客の遊技方法の分析等による相談者・遊技客の実態把握」

意見：ホール・ユーザー・一般社会が共通認識できる対策に繋がるように、問題を抱えた（抱えている可能性のある）相談者だけでなく、問題のある人と、そうでない人の違いなどが、客観的な分析結果から見出せるようにしていただきたい。また「問題のある依存の定義」自体も明確になっていない。定義があいまいだと解決ができない為、そこも明確にしてほしい。

【要綱 第 5、7（ATM について）】

原案：第 5：実施内容（ATM については未記載）

第 7：営業所の ATM 及びデビットカードシステムの撤去等に向けた検討

意見：ATM については風適法議連内での議論等で営業者の任意となっており、項目を掲載する必要が無いと思われる。

【要綱 第 5-3】

原案：第 8 全国的な指針の策定による広告・宣伝の抑制

意見：「抑制」という言葉を変更してほしい。遊技客も減る中、内容を問わず広告・宣伝を減らす方向に行き、「抑制」の行く末は「広告をしない」になりかねない。「適正な遊技の啓蒙の推進」など前向きな表現に変更してほしい。

【要綱 第 6-2】

原案：②お客様本人の同意のない家族申告による入店制限の検討

意見：この内容は法的に問題があると思われる。法的に問題がある条項を記載することはできない。弁護士に確認し、クリアしてほしい。

【要綱 第 8】

原案：第 8 依存問題の予防と解決に取り組む民間団体等に対する経済的支援の実施

21 世紀会は、「一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構」への寄付等を通じて毎年、依存問題に取り組む民間団体等への助成を行います。

意見：支援の実施に加え、社会への発信についても実施してほしい。

【要綱 第 9. 都道府県選定「依存症専門医療機関」の広報協力】

原案：ホールは、相談者からパチンコ・パチスロ依存における相談があった場合において、相談者から特に医療機関の紹介を求められたときは、「依存症対策全国センター」のホームページ (<https://www.ncasa-japan.jp/you-do/treatment/treatment-map/>)を紹介することとします。

意見：基本計画に記載されているため、この内容を盛り込む必要があると思われるが、紹介されている一部の医療機関の HP で、パチンコ・パチスロに対する理解が不足していると思われる表現がみられる。業界から医療機関へのアプローチ（説明）を検討して頂きたい。

【要綱 第 10】

原案：21 世紀会は 2019 年 1 月に第三者機関「パチンコ・パチスロ産業依存対策有識者会議」を設置し、業界が取り組む各種依存対策についての諮問に対し評価・提言を得る取組を開始しました。

意見：対策を実施する以上、成果が上がってアセスメントするのが重要。この項目に盛り込まれているが、対策を取ったことによりどのような効果が出たか、どのくらい依存問題をかかえる人が減ったのか検証してほしい。

【その他】

意見：まずパチンコは公営ギャンブルとは異なり遊技であることを明確にすべき。そして対策を導入する際に、対策案を棚卸した上で、ギャンブルに必要な対策、遊技では必要でない対策に分け、それぞれの業種に落としていく必要がある。縦割りでは無く、対象業種全体で対策の検討をすべきである。対策は既に始まっているが、今後整理していくべきである。また、必要があればその文言も盛り込んでいただきたい。

<意見>

- ・政府の基本計画の中で、パチンコ業界として要綱を作成する事が求められている。これの草案を全日遊連が作成、これに対する意見を集めた。
- ・要綱内での日遊協のガイドラインの位置づけは？ ⇒ 要綱は政府の基本方針にマッチングさせないといけない。そこで、部分的には業界の方向性と逆進している箇所もある。

5) ギャンブル等依存症対策推進基本計画に係る取り組みの推進について ギャンブル等依存症対策における各地域の包括的な連携協力体制への参画について

「ギャンブル等依存症対策推進基本計画に係る取り組みの推進について」

警察庁より、ばちんこへの依存防止対策として、「ギャンブル等依存症対策推進基本計画」(平成 31 年 4 月 19 日閣議決定)に基づき、

- ・RSN の相談窓口告知ポスター、依存対策啓発ステッカー等の掲示
 - ・安心パチンコ・パチスロアドバイザーの配置
 - ・リーフレット等を活用した、RSN、自己申告・家族申告プログラム及び保健所・精神保健福祉センター等の紹介
 - ・共通標語の活用
 - ・自己申告・家族申告プログラムの実施
 - ・入店した客に対する年齢確認の実施
 - ・ATM 等の撤去等
 - ・依存防止対策についての従業員への教育
 - ・適度な遊技方法の案内 等の必要な対策
- 等の必要な対策実施の周知徹底をお願いされた。

「ギャンブル等依存症対策における各地域の包括的な連携協力体制への参画について」

警察庁より、9 月 17 日付で厚生労働省から各都道府県等に対し、「ギャンブル等依存症対策における各地域の包括的な連携協力体制の構築について」(以下「厚生労働省通知」という。)が、発出された。

この厚生労働省通知では、都道府県等において、関係事業者を含む地域の関係機関が参画する包括的な連携協力体制を構築するための「ギャンブル等依存症対策連携会議」に関する事項が定められており、パチンコ業界もこうした連携協力体制に参画し、各地域における他の関係機関との円滑な連携を確保、情報や課題の共有、最新の知見の収集等を図って欲しいとお願いされた。

<意見>

- ・厚生労働省から警察庁を通じてパチンコ業界へ通知した文書。
- ・業界の識者からは、いわゆる関係者会議の地方版ではないかと伺った。
- ・関連して、ギャンブル等依存症対策 都道府県説明について。政府の基本計画に基づいて、各都道府県もそれぞれの計画を作る必要があり、都道府県計画策定の留意事項が記されている。この各都道府県の計画は、政府の基本計画に沿わせつつ各都道府県の実情に合わせるべきとなっている。

6) 株式会社ダイナム パチンコ・パチスロ依存問題に関する基礎研究「安全な遊技のためのアンケート調査」について

2019年9月2日、株式会社ダイナム オフィシャルサイトにて、掲題の広報として下記の内容が発表された。「2019年9月より、公立諏訪東京理科大学 地域連携研究開発機構 医療介護・健康工学部門（部門長：篠原菊紀）および、株式会社クロスマーケティングと共同で、パチンコ・パチスロ依存問題に関する基礎研究「安全な遊技のためのアンケート調査」を実施致します。」

- ・会員の方にアンケート調査を実施予定。パチンコに対する考え方を聞く。遊びなのか利益のみなのか。また、パチンコの為に借金をした事があるか、など。
- ・店舗で遊技するお客の現状を把握するためのアンケート。
- ・長年遊んでいるお客様から、安全な遊び方などが分からないかという試み
- ・個人を特定しない形で、間に公立諏訪東京理科大学を挟んで調査を実施していく。
- ・郵送でアンケートを依頼する。回答は、返信又はWEBで可能。
- ・ある程度の遊技期間がある会員をアンケート対象としている。

<説明>

- ・DMのアンケートに同封した説明文書で協力を依頼している。
- ・アンケートを2万人に配布、9月20日現在で4400人の回答者。目標は6000人。
- ・アンケートの発送10日後に本県に関するニュースリリースが出てから回答が増加した。
- ・実際のアンケートでは、会員カードの使い方を確認、PPDS 準拠の質問や、ポジティブスケール等の設問が設置されている。これは、いかに健全に遊技が出来ているかを調べるアンケート。
- ・対象会員2万人の抽出条件は、1年間に○回の遊技にあたり△発以上打ち込んだ方。
- ・今回のアンケートのためにクレーム窓口も設けたが、クレーム自体がほとんどない。
- ・データ分析の結果が出てくる時期は未定。

7) 依存問題勉強会について

<第3回依存問題勉強会> ※予定

開催日：令和2年1月24日（金）

時間：午前10時～

会場：TKP 上野駅前ビジネスセンター 6A

講師：NPO 法人ワンダーポート 施設長 中村 努 様

<第4回依存問題勉強会> ※予定

開催日：令和2年3月26日（木）

時間：午前10時～

会場：TKP 上野駅前ビジネスセンター 6A

講師：認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク 代表 西村 直之 様

<意見>

- ・依存問題の現場に接することが非常に刺激になる。
- ・会食の機会を設けたい。
- ・お二人の依存の関係者にもお話を伺いたい。

8) 依存問題対策実施確認シートについて

全日遊連が作成し各ホールにて定期的に記載を更新、記入していくようにしているチェックシートに、記述式の

問いかけが追加されている。アドバイザーに相談があった場合の対応、18 歳未満の可能性のあるお客様の対応、従業員教育の実施状況、適度な遊技方法の紹介など。その回答事例を確認した。

<意見>

- ・ 8 月全日遊連から組合員にアンケートが出されたがそれと微妙に異なる部分がある。
- ・ RSN の 6 種類のリーフレットは使い処が決まっており、お客様に説明する際にはオリジナルのリーフレットを作成、お客様に知ってほしい内容として、適度な遊技方法を説明している。
- ・ 依存問題対策の現地調査を受け持つ一般社団法人遊技産業健全化推進機構の説明を聞きたい。事務局に招聘を依頼する。⇒ 了解した。

※後日、機構と調整の結果、11 月 15 日（金）の依存問題対策プロジェクトチームにて午前 10 時より説明を受けることに決定した。

9) 次回開催

開催日：令和 1 年 10 月 18 日（金）

時間：午前 10 時～正午 12 時

会場：TKP 上野駅前ビジネスセンター 6A（6 階）

以上